

諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成19年1月

(平成18年12月末調査)

平成19年1月23日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

**諏訪信用金庫
経営相談室**

電話 0266(23)4567(代)

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比
有効求人倍率 【11月】	諏訪公共職業安定所管内	1.21 倍	0.05 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.84 倍	0.38 ポイント
手形交換高【12月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	10,929 枚	1020 枚
	金 額	14,596 百万円	455 百万円
うち不渡り発生状況	枚 数	2 枚	4 枚
	金 額	410 千円	4,476 千円
車庫証明取扱件数【12月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,014 件	1.2 %
新設住宅着工件数(18年4月~11月) (諏訪地方事務所管内)		1,396 戸	157 戸

地域の概況

製造業

自動車関連の外注企業の受注は堅調で高水準の操業を続けている企業が多い。また、搬送機械、産業機械なども受注が堅調で高水準の生産を続けている企業があるが、なかには目標の受注が確保できないところもみられる。

製造業全体では、9月から10月をピークに受注が弱含みとなったが、その後11月から12月にかけて受注が幾分回復し横這い状況のところが多くなっている。電気機械などは機種により生産調整気味のところもあり、先行きについて慎重な見方の企業が多い。ニッケルやアルミ、ステンレスなどの素材価格は依然として強含みで、今後値上がりの動きもあり受注単価との狭間で収益確保に苦慮する企業が多い。

地域製造業は、収益性の課題や受注に先行き不透明感を抱えながらも、全体としては引き続き底堅い動きとなっている。

商業

12月の天候は、上・中旬は一時的に寒気が入ったが月間の平均気温は平年より高く、下旬に大雨が降るなど冷え込みが少なく商業活動に影響を与えた。

御歳暮など年末年始の贈答品は出足が低調だったものの、後半は食料品を中心に盛り返し前年並みとなったところがみられた。

衣料品は、平均気温が高かったことから季節商品の売れ行きは低調で、クリスマス前後からクリスマスセールが始まるなど総じて低調であった。

食料品は、生鮮3品はりんご、みかんなどの果物や野菜の売れ行きは順調で、クリスマスケーキやお正月の食材なども前年並みの売れ行きをみせた。ただし、販売数量は伸びたものの商品価格が下がっており、売上高では前年対比を幾分割り込んだところが多い。

大型家電店は、引き続き大型薄型ＴＶが好調な売れ行きをみせ、レンズ交換式一眼レフデジタルカメラも順調な売れ行きであった。ゲーム機は品切れ状況で好調だったが、新 OS の発売を控えパソコン関連の動きが鈍かった。

ホームセンターは、上旬は降雪がなく冬の季節商品の動きは今一つであったが、後半は動きだし年末年始の生活関連商品の売れ行きは順調だった。

観光

12月の気温が高く降雪量が極めて少なかったことから、スキー場のオープンが遅れるなど冬の観光地は天候の影響を受けた。団体客が減少するなかインターネット予約による個人客は増加しており、特別企画やイベントにより集客効果を挙げたところもみられた。また、宿泊客が前年を割り込んだものの、飲食など含め客単価が上がり売上げを伸ばした旅館もみられた。

上諏訪温泉は、特別企画やイベント開催により宿泊客を伸ばしたところもある。団体客は減少傾向にあるなか、インターネット予約など個人客が着実に伸びている。旅館ホテルにより区々ではあるが、宿泊客は総体では前年比10%前後増加した模様。

蓼科・白樺湖・車山方面の宿泊客は、施設により区々となっているが企画やイベントなどにより集客効果をあげ前年を上回ったところもある。雪不足で宿泊客が減少したところがみられるが、なかには降雪が少なく穏やかな天候から年末年始の宿泊客が例年を上回ったところもあり、総体では前年を幾分上回った模様。

下諏訪温泉は、前月比では宿泊客数・日帰り客ともに増加したところがみられ、前年同月比では増加減少区々となっている。忘年会を兼ねての宿泊客が幾分増加し、売上げを伸ばしたところもみられた。

諏訪大社の12月の参拝者数は前年を幾分下回ったものの、「3ケ日」の初詣参拝者は上社211千人、下社146千人合せて諏訪大社全体では357千人の参拝者で大変な賑わいであった。全体では前年を9千人上回り初詣参拝者は2年連続して前年を上回った。

建設業

市町村の12月の発注工事は662百万円で前年同月比158百万円増加した。県発注工事は2,724百万円で、4月～12月の累計契約額は6,236百万円で前年12月累計に比べ3,830百万円増加している。

県・市町村合わせた12月の公共工事の地元企業受注額は3,386百万円で、4月～12月の累計契約額は前年比3,988百万円増加した。

民間工事は11月の新設住宅着工件数が120戸で、前年同月比33戸増加した。18年4月～11月の累計着工戸数は1,396戸で、前年同期の累計着工戸数に比べ157戸増加した。

建築工事は、工場建設や個人住宅及びリフォームなどで受注量を確保したところもみられる。

土木工事は、災害復興工事が始まり、市町村の小規模工事の発注件数は大幅に増加した。県発注工事が本格化し54件の大口発注があり平成19年早々から工事に着手することとなっている。

雇用

11月の有効求人倍率は、諏訪公共職業安定所 1.21 倍・岡谷公共職業安定所 1.84 倍で、諏訪地域の有効求人倍率は 1.45 倍と長野県全体の 1.33 倍を上回っている。

諏訪公共職業安定所と岡谷公共職業安定所を合わせた 11 月の新規求人(全数)は 1,575 人で、前年同月比では 8 ヶ月振りに増加となっており雇用環境は安定している。

諏訪地域の有効求人倍率は、平成 15 年 10 月以降 38 ヶ月連続して 1 倍を上回っている。

当金庫から見た需資動向に大きな変化はみられない。

業種別動向

1. 電気機器

プリント基板	受注状況は企業により増加減少区々となっている。総体では上半期に比べ幾分弱含みの横這状況が続いている。
コンデンサー	自動車用コンデンサの受注は増加しており、エアコン用コンデンサの受注も増加に転じている。
プリンター	下請企業の受注状況は区々となっている。大型プリンターは堅調に推移している。
コンダクター・リレー	受注は安定しており堅調な生産が続いている。

2. 輸送用機械

自動車	国内メーカーは安定した生産を続けており、下請企業の受注は堅調となっている。量産部品加工の外注企業は引き続きコストダウン要請を受けている。
ピストンリング・シリンダーライナー	海外の生産が増加しており、国内はスチール製ピストンリングの比率が高まっている。
船外機	下請企業の受注は安定しており横這状況が続いている。

3. 一般機械

工作機械	自動車部品の加工機械は引続き堅調な生産を続けているが、先行き慎重な見方をしているところもみられる。
専用機・省力機器	専用機械、省力化機械など産業機械の需要は旺盛で高水準の生産を続けているところが多い。地域内企業で民事再生法の適用を申請した企業が見られるなど開発型企業の生産状況は区々となっている。
搬送用機械	食品関連企業やデジタル家電企業などの受注は堅調で、今後も高水準の生産が見込まれる。
金型	音響部品関連の金型は幾分弱含みとなっているが、情報機器や医療機器等の金型の受注が堅調なところがみられる。
アルミダイキャスト	自動車部品は増産傾向で高水準の生産を続けている。

4.カメラ・レンズ

デジタルカメラ

全国のデジタルカメラの11月の生産台数は861万台で、前月比 2.7%減、前年同月比 16.2%の増加となっている。(カメラ映像機器工業会)

11月までの総出荷は、前年同期比 8.0%の増加となっている。レンズ交換式一眼レフタイプの伸びが大きく、国内出荷は前年同月比 91.1%の増加、輸出も前年同月比 92.3%の増加となっている。

レンズ一体型は海外生産が主流となっており、地域の下請企業の受注状況は区々となっている。レンズ交換式一眼レフの11月の生産台数は65万台で、前年同月比 94.3%の増加となっている。地域の一眼レフ交換レンズの金属加工の受注は堅調となっている。

プロジェクター

メーカー各社の海外生産比率は高まっており、関連ユニットや部品など海外への移行が進んでおり地域企業の生産は減少している。

レ ン ズ

ガラスレンズの生産は海外が主体で国内の生産規模は縮小しているが、小回りの利く小規模の下請企業の中には幾分受注が増加した企業もみられる。

5.織 維

ニ ッ ト

12月の平均気温が高く全国的に、婦人衣料の売れ行きが幾分低調だったことから、専門店からの発注は小ロットとなっている。メーカーは春物商品の最盛期を迎え繁忙となっているところがみられる。

6.食 品

寒 天

一昨年春の寒天ブームが薄れたこともあり、受注・出荷ともに落ち着いた動きとなっている。生産の時期を迎えたが12月は気温が高い日が多く平年より稼働日数が少なくなっている。

味 噌

需要期を迎え前年並みの出荷状況となっている。

7.製 材

諏訪地域の11月の木造住宅着工件数は96戸で前年同月比 22戸減少した。国内需要は低調であるが、インドネシアなど木材輸出国の輸出先が従来の日本主体からインド、中国などに拡大し国内への輸入材が減少しており建材(コンパネ、ベニヤ他)は前年比 4割程度値上がりしている。

8.建 設

公 共 工 事

12月に地元業者が受注した県関係公共工事は、発注機関別では諏訪建設事務所 21件、林道治山工事関係 21件、土地改良工事 11件など合せて 54件、契約金額 2,725百万円となっている。18年4月～12月の累計契約額は 6.236百万円で前年12月累計比 3,830百万円増加した。

市町村発注工事は、建築工事 4件 13百万円、土木工事・下水道工事など 108件 580百万円、その他工事 21件 69百万円で合計 133件 662百万円と前年12月に比べ発注件数は 43件、発注金額は 158百万円増加した。

民間工事 諏訪地域の11月の新設住宅着工件数は120戸で、前年同月比33戸減少した。建築工事は、工場の新設や増築案件に幾分動きが出ている。土木工事は災害復興工事の県発注が始まり大幅な受注増加となり、春には本格的工事が始まる状況となっている。

9. 商業

諏訪地方の12月の天候は、上・中旬に一時的に寒気が入り込んだが月間の平均気温は平年より高く、下旬に大雨が降るなど冷え込みが弱く商業活動は天候の影響を大きく受けた。

御歳暮など年末年始の贈答品は出足が低調だったものの、後半食料品を中心に盛り返し個人の贈答品は前年並みとなった。

衣料 平均気温が平年より高かったことから婦人衣料や防寒着等の冬物衣料品の動きが弱く、クリスマス前後からクリアランスセールが始まるなど低調だった。

食料品 野菜や果物など量的には伸びたものの客単価が伸びず、売上げが前年同期を割り込んだところが多くみられた。クリスマスケーキや年末年始の食材は前年並みで、「すし、オードブル」など例年以上に売れ行きを伸ばした商品がみられた。

電気機器 薄型大型TVが引き続き好調のほか、一眼レフデジタルカメラ、ゲーム機なども順調な売れ行きであったが、新OSの発売を控えパソコン関連は低調であった。

自動車 諏訪・岡谷を合わせた12月の車庫証明件数(軽自動車除く)は1,014台で前月比63台減少したが、前年同月比では1.2%増となっている。軽自動車の販売は総体的に好調であり、12月の新車の販売台数は353台となった。普通自動車の新車の動きは幾分低調となっている。

ホームセンター 冬の季節商品は降雪がなく上旬の動きは今一つであったが、後半は除雪用具などが準備のため動きだし、年末年始の生活雑貨も順調に売れ上げを伸ばした。

デパート 平均気温が平年より高かったため冬物衣料品の動きが弱かったが、御歳暮など年末年始の贈答品は順調な売れ行きをみせた。

10. 観 光

12月の気温が高くスキー場周辺の降雪量が極めて少なかったことから、人工雪によるスキー場のオープンも遅れるなど冬の観光地は天候の影響を受けた。

宿泊客は団体客が減少するなか個人客は増加しており、また、インターネット予約が徐々に増えるなか特別企画やイベントにより集客効果を挙げたところもみられた。

上 諏 訪 温 泉 特別企画やイベント開催など営業効果から宿泊客を伸ばしたところもあった。団体客の減少傾向が見られるなか個人客は増加しており、インターネット予約が伸びている。宿泊客数は旅館、ホテルにより区々ではあるが総体では前年比10%前後伸びている。
一部旅館では客数は前年を割り込んだものの、飲食を含めた客単価が上がり売上を伸ばしたところも見られた。

蓼科・白樺湖・車山 降雪が少なくスキー場はオープンが遅れるなど影響を受けた。宿泊客は施設により区々となっており、イベントなど集客効果を上げたところや気象が平穏だったことから年末年始の宿泊客が例年を上回ったところあり、総体では前年を上回った模様。

下 諏 訪 温 泉 前月比では宿泊客数、日帰り(宴会)客数ともに増加したところが多くみられたが、前年同期比では増加減少区々となっている。
忘年会を兼ねての宿泊客が幾分増加し売り上げを伸ばしたところもみられる。

諏 訪 大 社 12月の参拝者は前年を幾分下回ったものの「3ヶ日」の初詣参拝者は357千人で前年より9千人増加し、初詣参拝者は2年連続して前年を上回った。

トピックス

諏訪地域は電子機器、電子部品・デバイス関連企業が多く、地域経済を牽引しております。社団法人電子情報技術産業協会のご協力をいただき、2007年の電子工業生産見通し（2006年12月19日発表）を掲載いたしました。

2007年のわが国電子工業の国内生産は米景気の減速、原材料価格の高騰、猛烈な価格競争、個人消費の減速など懸念材料はあるものの、生産能力、雇用、債務の3つの過剰を克服し、ゼロ金利の局面を脱したわが国経済は概ね堅調に推移すると思われることから、2年続けて増加するものと予測した。

世界経済の動向は世界全体で年率5%近い成長を続けるというのが国際通貨基金（IMF）の見通しで、わずかに伸び率の鈍化が予想されるものの、概ね堅調と予測される。米国経済は消費減退に加え、住宅市場の冷え込みで減速が予想されるが、中国を筆頭とするBRICs新興経済諸国の成長は旺盛で、米国経済の減速を穴埋めするのに充分ではないかと思われる。ただ、石油価格の動向によっては米国経済に大きな影響を及ぼすことも懸念され、価格次第で世界経済の見通しの変更も必要となろう。

欧州景気はドイツ主導で勢いを取り戻し、内需が活気づき良い状態と言える。2007年はドイツでの付加価値税増税が気になるところであるが、若干の鈍化は予想されるものの、景気は概ね底堅く推移することと予測される。

以上の状況から、2007年のわが国電子工業の国内生産は21兆163億円、前年比103.6%と予測した。

民生用電子機器の生産はDVD・ビデオ、デジタルカメラは市場の成熟などから伸び悩みが予測されるものの、薄型テレビ、カーナビゲーションシステムは引き続き堅調な伸びが見込まれることから、全体として2兆8,437億円、前年比104.5%と予測した。

産業用電子機器の生産は海外生産シフトがさらに進むと思われるが、主力のパソコンが新OSの登場により買替需要の拡大が予想され、携帯電話も前年に高機能端末や番号ポータビリティ制度の導入により買替需要を促進したことの反動はあるものの、引き続き高水準を維持すると思われることから、全体として7兆5,080億円、前年比101.2%と予測した。

電子部品・デバイスの生産は内外景気の減速により、設備投資、個人消費の減少が予想されるものの、カーエレクトロニクス、デジタル家電の需要は海外も含めて引き続き拡大しており、BRICsなどを中心とした携帯電話需要の拡大、パソコンも新OSの投入効果による需要拡大が期待されることから、10兆6,646億円、前年比105.2%と予測した。